

HEALTHCARE

アッパーバレー メディカルセンター (米国、オハイオ州トロイ)



よりよい医療に
貢献する
カーペットファイバー
アッパーバレー
メディカルセンター

→ 米国オハイオ州、アッパーバレーメディカルセンター (UVMC) の患者ケア/施設課の副部門長、ジム・フラク (Jim Hurak) 氏は、ヘルスケア環境におけるカーペットのメリットを非常に高く評価しており、同メディカルセンターのほぼすべての公共エリアにカーペットを導入しています。

ケーススタディー： アッパーバレーメディカルセンター (米国、オハイオ州トロイ)



医療施設に対してカーペットを推薦するのは簡単だとフラク氏は言います。「カーペットが洗練された美観や暖かく静かな環境を作ります。カーペットを使えば、病院の中を簡単に自宅のようなインテリアにすることもできます」。

感染管理の問題から医療施設へのカーペット導入に不安を感じる施設管理者がいることをフラク氏は認めています。しかし、このような理由からカーペットを避けるべきだという調査結果はありません。1985年の手洗いおよび病院の環境管理に関するガイドラインの中で、米国疾病対策予防センター(CDC)は次のように述べています。「患者ケアエリアにおけるカーペットの使用を避けるべきという勧告は削除されました。カーペットが院内感染発生率に影響すると示す疫学的証拠は存在せず、カーペットの使用は感染管理の問題とは別物です」。2003年の医療施設における環境に関する感染管理のためのガイドラインには「カーペットを使用すべきでないという勧告は含まれていない」と書かれており、CDCは患者ケアエリアにおけるカーペットの使用を認めています。ただし、液体による汚れが頻繁に発生するエリアや、やけどに対する治療室などの感染リスクが非常に高い患者を扱うエリアでは細心のメンテナンスが必要という理由で、この例外であるとしています。

フラク氏も、カーペットは感染管理の問題に影響しないと考えています。「この問題について調査し、その研究結果を見たところ、カーペットには細菌、ほこり、アレルゲンが付着するため、掃除機で効果的に清掃ができると分かりました」と語りました。「20年以上UVMCに勤めてきて、カーペットが院内感染率に悪影響を与えているという研究を読んだことはありません。また、そのような証拠を見つけたこともありません」。

フラク氏は、カーペットは硬質床材よりも清掃しやすいと考えています。「メンテナンスの観点から言えば、カーペットは毎日掃除機をかければよいので、清掃もしやすいのです。一方、硬

質床材の場合は、床は輝いているべきという期待があります。これを実現するには、常時、人間の労力を要します」とフラク氏は語ります。

医療施設において重要になりつつある課題の1つに、騒音管理が挙げられます。静かな環境は患者の満足度を高め、治癒が促進されるほか、医療従事者が注意散漫となる状況がある程度排除できるので、ミスの削減にもつながります。「カーペットは、患者さんのために静かな環境を作るのに役立ちます。私は、集中治療室(ICU)など、従来以外のエリアでもカーペットを使用するメリットを見てきました。カーペットによって快適な室温が提供され、患者さんのケアに必要な機器やスタッフが出す騒音も緩和されます」とフラク氏は続けました。

メディカルセンターを手掛ける建築事務所、アッパーアーキテクチャー(AppArchitecture)社にカーペットファイバーとデザインの仕事推薦書の作成をフラク氏は一任しました。インテリアデザイナーのチャーリー・ケント(Charlie Kent)氏と建築家のリック・ウィリス(Rick Willis)氏は、医療施設にとってカーペットは理想的な選択であるが、多くの施設管理者がその点を見落としていると同意しています。「硬質床材と比較して、カーペットは時間を経ても見た目が清潔であり、足元に快適さを提供してくれるほか、機器類の車輪による重量にも耐え、太陽光の反射に起因する安全面での懸念もないというのが私たちの見解です」とケント氏は語っています。

UVMCに対して推薦したカーペットが確実に性能を発揮するよう、アッパーアーキテクチャー社のプロジェクトチームは、社内テストを実施しました。「私たちは、汚れをこすり付けたサンプルを用いて試験を行い、清掃のしやすさを評価しました。また、サンプルの上を自動車に走らせて、その外観の維持力と耐久性もテストしました。性能試験の結果に基づき、私たちはミリケンコントラクト社の『センス』を推奨しました。アントロン®ナイロンのようなカーペットファイ

バーブランドを指定することで、クライアントに優れた性能を提供できると考えています」とケント氏は語りました。

ミリケンコントラクト社のカーペットは、cXc(過酷な使用条件用のカーペット)製品のひとつであると同時に、他の理由からもこのプロジェクトにとって最適な選択肢でした。このカーペットの大きさはロールカーペットとは異なり約90cm角であるため、施設の業務をあまり邪魔することなく迅速かつ簡単に設置することができます。また、同じカーペットで改修を行うことができるので、数年後でも入手可能ということもフラク氏にとっては重要でした。そうすれば、同じカーペットで改修を行うことができます。「センス」にはデジタル配色の技術が使われているため、ミリケンコントラクト社はいつでもスタイルを複製することができるのです。

「アントロン®ナイロンのような、
カーペットファイバーブランドを
指定することで、クライアントに
優れた機能を提供できると考えて
います」

— チャーリー・ケント (Charlie Kent)
インテリアデザイナー

フラク氏は、カーペットの優れた性能に満足しています。「当施設は米国の中西部にあります。そのため特に冬は来院者が雪やぬかるみ、雨の中を歩いてくるため、カーペットは過酷な条件にさらされることとなります。アントロン®カーペットファイバーは比較的簡単にきれいになるので、落ちないシミというものにはまだ出くわしたことはありません」と語ります。「さらに、建物には多くの自然光が射しこみますが、色褪せも見当たりません。このカーペットは見た目の新しさを長期にわたり維持し、時が経っても期待通りの性能を発揮してくれると確信しています」。

詳細はお近くのインビスタ社 ファイバーコンサルタントにお問合せください。
インビスタ ジャパン合同会社 機能サーフェス部 Tel. (03)5511-0090 www.antron.jp

情報は発行時点のものであり、インビスタ社は情報の更新を行う義務は負いません。仕様は予告なく変更される場合があります。インビスタ社の製品は、最終的な利用形態によって性能効率が異なります。仕様については、インビスタ社までお問い合わせください。
© 2014 INVI STA. All Rights Reserved. アントロン®およびアントロン®商品群のマークとロゴは、インビスタ社の商標です。
ここに掲載されている商標は各所有企業に帰属し、許可を得て使用しています。

JCS008-10/14

antron® 